

実りの秋の中を行くみこし＝掛川市、全日写連・中村勝利さん撮影

## 祭りに安全祈る

# 一字一筆

静岡の今

秋は、祭りのシーズンである。静岡市では国際的イベントに定着した大道芸が、今年も県都に深まりゆく秋の到来を告げた。県内各地でも住民や保存会などで昔から引き継いできた伝統の祭りや神事が行われ、

地域の安全や家族の幸せを祈る。

牧之原市では、市内の4神社で「御船神事」の祭りがある。駿河湾沿いの地域に江戸時代から続く神事で、青年たちが千石船の模型をみこしとして練り歩き、海上安全を祈願する。

県民の「安全」にかかわる社会的ルールが、11月1日から変わった。一つは新

東名高速道の新静岡ICー森掛川IC間で最高速度を時速100<sup>\*</sup>から110<sup>\*</sup>に引き上げる試行が始まった。最高速度が100<sup>\*</sup>を超に引き上げられるのは、1963年に国内で

高速道路が開通してから初めて。利用者の利便性向上に向けた試行というが、暴走運転や前方車へのおとり運転など交通トラブル発生を懸念する声もある。静岡県警は速度超過、車間距離の保持、通行帯違反などの取り締まり強化に乗り出したが、静岡市清水区在住の夫婦が高速道路上の交通トラブルで死亡したばかりだ。試行期間の効果や事故発生の状況など慎重な検討が必要だろ

う。

もう一つのルール改正は、地震情報の出され方である。これまでは東海地震の予知を前提にした「警戒宣言」が出されることになっていたが、今後は「南海トラフ巨大地震」の想定震源域で一定の変化が観測された場合、「臨時情報」が段階的に発表されることになった。

秋晴れの今日5日、牧之原市勝俣の鹿島神社で「御船神事」が行われた。この辺りは、昔から何もない静かなところだったと神事を見守る古老の一人はつぶやいた。青年たちの担ぐ船のみこしを見下ろすように、近くの静岡空港から飛び立った旅客機が秋空をよぎった。

(前静岡県監査委員・富永久雄)

